

人文学の社会的意義、特性及び支援方策について 「人文学及び社会科学の振興に関する委員会」

人間文化研究機構 国文学研究資料館
伊井 春樹

一 日本古典文学の文化現象 一事例をめぐって

- (1) 源氏物語一千年紀の意義
- (2) アーサー・ウェイリー(6冊本、1925年～33年)
- (3) エドワード・サイデンステッカー(2冊本、1976年)
- (4) ロイヤル・タイラー(2冊本、2001年)
- (5) ドナルド・キーンの日本文学の普及
- (6) ピーター・ドラッカー『ドラッカー 20世紀を生きて 私の履歴書』
- (7) 日本現代文学、ポップカルチャー流行の世界的現象

中国の書店(杭州市)



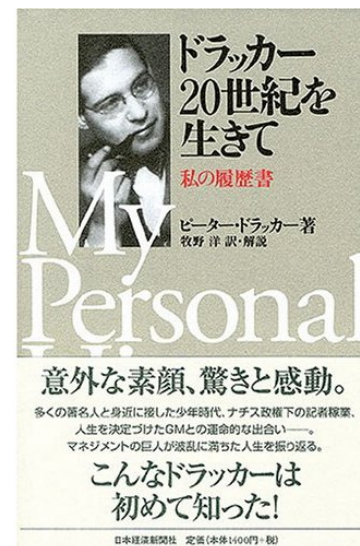
ドナルド・キーン氏



パリのマンガ喫茶



ドラッカー『私の履歴書』



- 「日本語だけじゃなく、日本の社会や文化をやってみようかと。みんなそうでしたよ。ことばだけではなく、文化・社会を勉強した。あの当時は、ウェイリーの『源氏物語』は圧倒的に有名でした。ですからそれを読みました。傑作だと思った、はじめから」(サイデンステッカー談『世界文学としての源氏物語』)
- 初の日本訪問は一九五〇年代の終わり、実はその時に日本文化との付き合いは二十年以上に及んでいた。ナチスに追われてロンドンに住んでいた時、日本画に魅せられ、『源氏物語』も読んだ。(『ドラッカー 20世紀を生きて 私の履歴書』2005年刊)

二 人文学の社会的意義

- (1) 人間研究の基礎学
- (2) 文化の継承(文学、芸術、歴史、思想等)
- (3) 英智の創生
- (4) 社会への貢献(文化行政、環境問題、情報化社会への対応、科学・技術との融合、協働、精神的に豊かな生活)
- (5) 教育への再生(文化、文学による共生意識の涵養、生涯学習)

三 人文学研究の特性

- (1) 研究の具体的な成果 性急な成果を求める研究分野ではない
- (2) 専門の細分化、連携研究・共同研究の困難さ→具体的な成果主義の弊害
- (3) 社会との接点認識の希薄さ
研究者自身の意識改革の必要性、文化全般に重要な役割を果たしてきている事実
- (4) 共同研究の概念

四 人文学への支援方策

(1) 研究環境の整備

○文化国家としての基本綱領策定の必要性 文学・美術・歴史・思想等の人文学の発展をめざす

(2) 地域の大学、研究機関、研究分野間の連携、共同利用機関の中核機能の充実

○国立大学全国共同利用附置研究所・研究施設(平成17年度)

総数78、内「人文学・社会科学系」は2、大学共同利用機関は4機構、内人文学関係は1

○ネットワーク型の研究組織の形成をはかり、重点的な資源配分方針とする

○大学共同利用機関の中核的機能の充実

データベース、デジタル化等による資料の提供、現物資料の収集と研究者の共同利用

(3) 大学及び研究者の相互協力態勢

全国の研究者の交流促進、大学院生の流動化、単位の互換性、学位論文提出先の自由度

※対応するための宿泊施設、共同研究室の設置

(4) 科学研究費の人文学研究の別枠化

(5) 若手研究者の育成

オーヴァー・ドクター、ポスドクへの支援、研究後継者の育成

※ネットワーク型研究組織、大学共同利用機関等での研究養成ポストの設置

(6) 人文学の国際化推進

○若手研究者の海外での研修促進

○学術交流協定の有効な活用

研究者の交流費、国際的な研究集会への補助

○外国語での研究成果発表の支援、翻訳の問題等

五 人文学研究機関としての「国文学研究資料館」の現状と課題

1 国文学研究資料の調査収集

- 国内外に所在する日本人によるすべての著作物、出版物を対象とする。
- 全国の研究者約200人を調査員として委嘱し、調査、撮影の立会等の依頼、研究者コミュニティの意見の反映

2 オリジナルネガフィルムの永久保存

3 原本資料の体系的な収集

4 学術資料への高次化

- ポジフィルム、紙焼写真、デジタル化
- 研究者への閲覧業務、資料提供、共同研究、データベース

5 研究者育成、支援

- 総合研究大学院大学

6 研究成果の社会的な還元

- 公開講演会、研究成果の資料展示

課題

- 1 海外資料調査、国際化への対応
- 2 マイクロフィルムの劣化
- 3 デジタル化の経費
- 4 原本資料収集、共同研究費

○国内の資料整備にともなう大量の資料の発見、海外資料の所在報告への対応

○古典籍への認識の変化による調査の困難さ

